



織元の協力のもと
会津木綿の風合いを紙で
表現することにこだわりました

会津木綿

会津木綿は福島県会津地方で、普段着、日常着として古くから伝統を保ってきた民芸織物です。天正年間に、時の会津藩主蒲生氏が、産業振興のために綿花栽培を奨励したのが始まりといわれます。後の藩主加藤氏が、前の領国伊予松山から織師を招き、技術を広めた「伊予綿」と呼ばれる織物技術が、現在の会津木綿の多彩な縞模様・素地となっています。その後藩主となった保科正之が奨励したことで、会津での綿花栽培と織物が定着しました。「機織（はたおり）」は農民だけでなく藩士の妻女の内職としても行われ、会津藩の特産品である漆器、陶磁器などと同様に、藩の保護政策のもとで次第に発達していきました。会津の風土や人柄を表すような純朴で技巧に走らない縞柄に特徴があり、現在では民芸織物として服地、テーブルクロスや座布団などのインテリア用品、ハンドバッグ、ネクタイ、財布、袋物などに幅広く利用されています。

【協力】

株式会社はらっぱ 原山織物工場

TEL：0242-36-7903 FAX：0242-36-7906

<http://www.harappaaizu.com> info@harappaaizu.com

株式会社はらっぱは、前身である「原山織物工場」を引き継ぐ形で2015年に始まりました。

会津木綿の伝統と新しいことにチャレンジする精神をそのままに、商品の開発にも取り組んでいます。

会津木綿 山田木綿織元

TEL・FAX：0242-22-1632

<http://www.aizu.com/org/aizu/yamada/>

藍と白の縦縞や格子縞といった伝統的な柄からモダンで色鮮やかな柄まで種類も沢山あります。

ポーチやエプロン、ネクタイなども製造、販売しています。

会津木綿柄シリーズで使用している柄の中には、現在生産されていない柄も含まれています。